

第3回 防災懇談会議事録

平成18年2月24日(金) 9:30~11:00 防災センターにて実施

欠席者：角地委員、宮澤委員、鈴木(裕)委員

《危機管理室長挨拶》

平成17年度第3回の防災懇談会へのご出席ありがとうございます。

これからの避難拠点運営についてということを中心に、従来の会議運営の形式を改め、委員の皆様が避難拠点運営連絡会等の活動に参加していただき、成果報告書を提出していただきました。本日は、まとめの確認内容をご論議いただきます。

私も、10月23日に石神井東中学校と順天堂大学医学部附属練馬病院とで開催された災害医療訓練に参加し、その際、皆様とお会いしました。

また、開進第二中学校の訓練にも参加いたしました。

委員の皆様には、のべ47回の活動に参加していただきました。

この報告書は、区内の全避難拠点103校に配布し、周知するとともに、練馬区のHPにも掲載させていただき、今後の避難拠点活動の参考とさせていただきます。

また、区の災害対策検討委員会でも、報告書をいただいているということで、施策にも反映させていけたらと考えています。

改めて感謝申し上げる次第です。

それでは、今年度最後の防災懇談会となりますが、よろしくご審議お願いいたします。

事務局

それではここで、ご論議いただく前に、先日開催した、練馬区総合震災訓練、図上訓練を記録したビデオをご覧ください。

高橋(洋)委員

本来なら図上訓練の意義を説明した上でご覧ください方が、ご理解が深まるかとは存じますが、今回は時間が限られているため、映像をご覧ください、適宜補足説明をさせていただきます。

状況付与については100人以上でやっております。

<<ビデオ上映>>

今回の訓練では、ある特定の災害に対する対応を行いました。訓練の前に、COOPの勉強会も行いました。図上訓練の意義は、災害時に、自分たちの役割はなにかということ意識するきっかけ作りです。

各状況の変化にあわせて、適切な対応が取れるかが大切になってきます。

事務局

議事を進めさせていただきたいと思います。進行は副座長にお願いいたします。

副座長

参加報告書について事務局に説明をお願いします。

事務局

第2回防災懇談会終了後に、各委員のご希望を募りまして、参加していただきました。今回の報告書は、第2回でのご意見を踏まえ、各訓練別に並べさせていただいています。到着時間の関係で、遅れて提出されたものは順番が前後しています。報告書の最後の訓練および参加予定者の一覧があります。こちらは参加予定者ということで、事前にご欠席の連絡をいただいた委員のお名前も載っています。以上です。

副座長

引き続き、区の考え方について説明をお願いします。

事務局

<まとめ内容説明>

副座長

本日の議事進行について説明する。まず4ページ以降についてご論議いただきたいと思う。各論の課題と区の考え方については、事前に皆様にメール等を通じて送付しているので、お目通しいただいているかと思う。その後、2、3ページのご議論をお願いしたいと思う。

まず、4ページ以降の各論について、全員の考えを伺いたい。訓練報告書の後期のものについても、付け加えるものがあればお願いしたいと思う。

内田委員

来年度の問題になるが、14ページのペットの問題について、もう少し深くできないものか。東京都は、規程によりペット同行での避難を認めているので、もう少し突っ込んだ考えがあったほうが良いと思う。

防災課長

内田委員からご指摘いただいているのは、この取り組み方では積極性がないだろうということだと思います。

書き方にも問題があるかもしれませんが、練馬区は全国に先駆けてペット問題に取り組んでおりまして、地域防災計画にも章を設けて記載し、実働訓練も行っています。区としてもペット同行避難を前提として、避難拠点運営連絡会にも積極的に訓練の働きか

けを行っています。ただ、避難拠点 103 校全体を見渡すと、その段階にまで至らないところもありますが、少しずつ理解は深まっています。

地域防災計画上も、動物の救護センターの指定を行っているのはおそらく他には無いケースだと思います。そういったものを、獣医師会や練馬区保健所でこういった体制がよいかを検討している段階です。

内田委員

動物の救護所の設置場所、個体識別、予防措置等の感染症問題等もある。
東京都の地域防災計画にもあるので、練馬区でも決めたほうが良いと思う。
練馬区のペット対策についても、もう少し PR したほうが良いのではないかと。

高橋（洋）委員

頂いたご意見など含めまして、練馬区保健所や獣医師会と協議しながら検討して参ります。ペットフードの備蓄等もやっておりますが、あまり公表しておりません。

内田委員

予防注射を検討する際には、ぜひマイクロチップのことも考慮していただければと思う。

高橋（洋）委員

マイクロチップについては、災害のための個体識別ではないので、一般的な個体識別として積極的に推進していただきたいと考えています。

小田委員

一番の問題は、各避難拠点運営連絡会の中のレベルに差があることだと感じる。
やはり、避難拠点運営連絡会にある程度の標準を作って、A・B・C ランクがそれぞれいくつあるのかということを決めることが必要だと思う。そして、一年間の目標で、どれくらいの数の避難拠点を A ランクに上げていくという目標を立てることが必要になる。
おそらく、活動している避難拠点はそんなにはないのではないかと感じた。
私は民間企業なので、数値目標がないと、なかなか成果は上がらないと考えている。

防災課長

取り組みが遅かったかもしれませんが、今は内部的にはランク付けしています。
ただ、なかなか特定の避難拠点に対して、あなたのところは D ランクです、とは言えませんので、内部的にですが目標をもってやっています。
私の個人的な感想だが、一定の見識を持った方が避難拠点を見てもらうと、防災課にとっても参考になる意見がたくさんありますので、防災課としては、真摯に受け止めて、来年度以降に取り組んでいこうと考えています。

副座長

おそらく、避難拠点でも他の拠点とのレベルの差は感じていると思う。
今後、区の方でもバックアップしていただければと思う。

川口委員

ランク付けというのがあった。

私は、避難拠点の訓練や運営、また、心のあかりを灯す会の活動で、あちらこちらに伺っているが、他の拠点でもすばらしいものがある。そういうものは、なかなか表には出てこないものもある。

地域では、丸一日かけて訓練を行うというのはなかなか出来ない。スタッフの準備時間を除いて、訓練時間は長くても2時間である。その中で、毎回毎回、具体的な成果を作っていくのは、本当に大変である。違う価値観を持っている人がたくさんいる中でやるということは、本当に難しいことだなと感じている。

ランク付けについては、南町小でできていなくて、他の拠点でできていることがある。逆に、防災課がどういう目でランク付けをしているのかという点も気になる。

小松委員

私も今回、訓練を数箇所見せていただいた。気のついた点として、大勢の人に集っていただくことに苦慮しているということがあった。

訓練そのものについては、訓練の役割分担や方法がほぼ固定化されているという印象を受けた。やはり、今回の訓練のテーマ・目的を絞った上での反復訓練も必要だと思う。

例えば、バーナーの操作訓練は、防災課が指導し、実際に使うのはごく限られた人である。その辺りが心許ないので、訓練の焦点を絞って実施する方が効果的ではないかと感じた。

人集めという観点から、訓練は日曜・土曜に行うところが主体だが、平日の集まりにくい時間に訓練を行い、どの程度人が集れるかということを検証するというテーマでやることも必要ではないかと感じた。

近藤委員

今回訓練に参加して、非常に参考になった。

まとめの中で、6ページの区の防災体制の2行目、「自宅が居住に適さないほど構造的に破壊された」という文章があるが、一般住民がどう判断するかが問題だ。

まず、地震が起きると各地区の応急危険度判定員が来るが、ほぼ全ての木造の建物が要注意か危険という判定になる。ところが、普通の方は見た目ではわからない。住民の方は判断できないので、一律的にやった方がいいのではないかと考えている。都市整備部とすりあわせした方がいいのではないか。

給水については、各学校に受水層があるが、受水槽は停電でも水が出るので、耐震化されていないところの耐震化を進めていくべきである。

副座長

学校施設について、ということか。

近藤委員

新築の建物については耐震化を行っているが、既存の建物については、行っていないと思われるので、特に公共施設については必要だと考える。

副座長

「自宅が居住に適さないほどに構造的に破壊」という文章はどうするか。

高橋（洋）委員

「自宅が破壊された方」と書いたほうが良いかもしれません。文章整理が必要です。

高橋（宏）委員

大泉西中の避難拠点運営委員もやっている。報告の中でも少し触れているが、避難拠点というのは、区要員、学校要員、地域住民で運営されているが、どうも学校要員の意識がどうかな、と感じられる。

これを見ると、区職員ではないので、指揮命令系統に入らないという表現になっている。

私どもの学校では、昨年3月に3年生対象の訓練を行った。今年も訓練をやろうと計画に入れておいたが、副校長が代わってしまって、防災の引継ぎがされていなかった。

今年3年生になる子どもを対象としたかったが、学校との打合せの結果、今年は1年生を対象とするとなってしまった。

そうすると、2・3年生は防災訓練を行わずに卒業することになってしまった。

学校要員の参加をもう少し積極的に出来ないものかと思っている。

また、避難拠点の資器材の管理について、私のところではそれぞれの資器材に番号をふった。半年に一度動かして、管理票に記入している。

去年の秋に、発電機を動かしたら調子が悪かったので、防災課に連絡を取り、修理をしていただいたという経緯があった。

副座長

15ページの避難拠点要員、学校要員のところの文章を変えていくという要望はあるか。

高橋（宏）委員

もう少し、学校の先生方に防災の意識、拠点の運動に参加する意識を高めてもらいたいということだ。

寺門委員

特段こう代えてほしいというのは無いが、もう少し基本的なところで、避難訓練という名称で行われているが、拠点を運営する側の訓練なのか、避難者に避難させる訓練なのか、あるいは一般人を対象とするのか、目的をはっきりさせて欲しいと思う。

大泉一小的訓練は、学童がメインだったが、それは避難させる訓練だったと思う。

連絡会が資器材を扱う訓練を行っていた。これは運営側の訓練であり、地域住民を避難させるという訓練は入っていなかった。

光三小は、周辺住民をいかに集めてくるか避難させるか、避難者をどう扱うかというものであった。ただ、避難しない住民に対して、「危険ですから避難しましょう」という人を集める訓練というのはどこにも無かった。

光三小でも大泉一小でも、人を集めるための犬のアトラクションがあったが、両方とも魅力的ではなかった。出てくる犬は数種類で、ちょっとしたパフォーマンスをするだけで、アトラクションとしての体をなしていなかった。他のイベントとの同時開催等、人集めについては工夫したほうがよいという感想を持った。

小野澤委員

寺門委員の発言ですが、やらなければいけない訓練がたくさんあるということは考えています。

避難拠点を作った際に、自立自前でいこうということで、現在、その地域で受け入れられる訓練をやろう、ということをやっている。

そのような避難をさせる訓練というのを受け入れられる地区はほとんどない。

区としては、全戸の安否を確認するという最終目標があるが、そこに到達するためには、まず、避難拠点の方たちに意識を持って頂かないといけない。それから、訓練をしていく段階になるので、まだまだ時間が必要かなと感じている。

寺門委員

訓練の目的をきちんと定めた方がいいのではないですかということである。

副座長

目的をきちんと定めて訓練を行っているところもあるようです。

次に、久井委員お願いします。

久井委員

今年、初めて参加させていただいたが、いろいろ勉強になることが多くて、良かったと思っている。

今日の最初の話で、連絡会の評価というものが出ていました。質問になるのですが、避難拠点連絡会相互の情報の交換の場や機能というものはあるのでしょうか。もし、ないのであれば相互に意見交換や研修など、交流の場を区が音頭をとって設ければ、すばらしく良くなるように思います。

次に、避難拠点などにある備蓄倉庫のカギの問題です。「いざという時に開くことが出来るように工夫を」と書いてありますが、カギというものは平時いたずらされないようにかけておくことが必要ですが、緊急に取り出す場合は、破壊してもいいということを明記しておけば、躊躇することなく取り出せる。

平時と有事の意識をきちんと改革すべきです。

副座長

以上2つのことについてですが、どうでしょうか。

小野澤

1つ目の情報の交換については、3年程前から光が丘地区でやり始めています。今年度は各地区でやりたいと考えています。

いずれにしましても、各学校間の交流というのは絶対に必要であり、住民同士だけでなく、職員同士の交流も必要になってきます。自分の拠点がどういう状況なのか、他の地区は何を考えてどういう形の訓練をしているのかということが、現在は防災課しかわからない状態です。防災課も、出来る限り情報を発信していくよう努めていますが、やはり交流する仕組みを作ることが必要と感じている。交流会は大きな柱としていくつもりです。石神井方面は、武蔵関地区では既に交流会を行っているが、3月7日には大泉地区で、18日には光が丘地区でも交流会を行う予定です。

平時と有事の備蓄倉庫のカギの問題については、あらかじめ決めているルールがなければ、基本的には破壊していい。ただ、破壊していいのであればルールを決めなくても良い、という話しにはなりませんので、できるだけ先に決めて下さい、とお願いをしている状況です。

防災課長

誤解の無いように申し上げますが、評価というのは、1番2番を決めるための評価ではなく、各拠点の取り組みを比べて、どちらがいいかなというものでもありません。あくまでも、拠点の活動を活性化するために、状況を把握し、係として、また担当者としてどう関わっていくかを判断するための評価です。

小野澤

今、課長が申し上げたように、内部基準なので講評する予定はないが、何と何が欠けているからDランクという具合に評価している。例えば、PTAが活動に関わっているかどうか、というような人材の動きの評価が大きくなっています。もう一つは、各学校が自立して活動できるかどうか、指示がないと活動できないのか、自立して活動できているところを最高ランクと評価しています。順位をつけるものではありません。

小田

評価は区が行う必要はないのではないのでしょうか。区が評価基準を作成していれば、連絡会の人自分たちで、今年はいくつクリアできたか、来年はいくつクリアすることを目標とするか。ということ自分たちで確認していくことができる。連絡会には、そのような作業を行うことが必要なのではないのでしょうか。

小野澤

避難拠点に入っていくと、ひとつの言葉、ひとつのものを理解してもらうのに非常に長い時間がかかる。そして、長い時間をかけて連絡会に根付かせていかないと次に続かない、という認識を区は持っているということをご理解いただきたいと思います。

副座長

ここで休憩を取ります。

<<休憩>>

副座長

次に、保科委員お願いします。

保科

今朝、やっとオリンピックで金メダルが取れました。それまで、マスコミは毎日メダルを取れると言っていたが、よくよく調べてみると、強豪選手が事前の大会に出場できていなかったということがありました。このことを考えると、やはり自分の所だけ見ているのはだめなんだということがわかりました。

私は、今年度から懇談会に参加し、いろいろな地域の訓練の様子をこういった報告書を通して、あるいは実際に見に行ったりしておりまして、非常に勉強になりました。他の方の目や耳を通したものは非常に勉強になりますし、今日の夜に南町小の避難拠点の会議がありますが、そこで皆さんに配りたいと思っています。このように、こういった報告書を防災課から各拠点に返して、こういった見方があったということ、他の拠点のメンバーの方にも知ってもらいたいのではないか。そして、それを見た他の拠点の方が、来年はこの懇談会の場にでてきてもらう、そういったフィードバックのようなものがあれば、この懇談会も広がりがあるのではないかと思います。

副座長

他の拠点へのフィードバックというのは、防災課のほうでお願いして大丈夫ですね。では、横山委員お願いします。

横山

私は、仕事で図上訓練や実動訓練の企画・運営、最終的には評価もやっています。そのため、都道府県の図上訓練にも参加する機会が多いが、非常にレベルの高い、質のよい意見交換会だなと半分驚いています。他の自治体や、都内の各区の状況をみてみますと、ここまでのレベルに達しているところはほとんどなく、練馬区は先進的な区だなとおもっております。

今回、各拠点の運営訓練を見せていただいたが、2、3感じたことがあります。一つは、

訓練である以上は、目的・目標を明確にしてやっていかなければならないと思います。なかには、どこに目標を置くか、ウエイト付けが明確になっていないところも見受けられましたので、明確にさせていただきたいというのがありました。

2つ目は、各拠点の間の温度差が非常に大きい。私なりに原因を考えたが、学校の校長先生や学校要員の方がどのくらい前向きにとりくんでいるか、あるいはPTAの皆さんがどのくらい加わっていくかによって、かなり達成度が違うという感じをうけました。いかにPTAを戦力化するか、そして、子どもさんが卒業した後も引っ張り込み、若い方を確保していくことが必要なのかなと感じました。

最後は、各拠点が、お互いに水平展開をしていくことが必要です。他の拠点のものを参考にしてやっていかれたら良いのかなと思いました。やっていただきたい。

副座長

鈴木座長お願いします。

座長

先ほど、寺門委員がおっしゃっていた目的という点について、訓練をやる側としては何人集まるか、天気はどうなのかが一番大事になってしまう。訓練参加者が10人ではしょうがないですから。そうすると目的がずれてしまうのかなと、私も共感いたしました。

また、先日、内閣府の勉強会に行ったのですが、そのときにある都道府県の方が、行政のトップが替わると防災に対する考えも消極的になることがある、とおっしゃっていました。その点、今の志村区長は大変地域を理解していて、素晴らしいな、頼もしいなと思っています。

副座長

私のほうからは、資器材について簡単に出来ることのご提案をしたいと思います。資器材の操作方法のレクチャービデオを撮って頂きたい。撮影は私も協力いたしますので、人材と機会を与えていただいて、そのビデオを103校の避難拠点に配れば、皆さんがいつでも見られて予習・復習ができるようお願いしたい。できれば、インターネットでも流して一般の方も見られるようにしたいと思っています。

また、発電機が動かない拠点もいくつかありましたので、メンテナンスをどれくらいおきに行ってくださいというものを記載したリストを作成し、各拠点に配布していただければと思います。

それではまとめに入ります。2・3ページについて何かご意見はございますでしょうか。寺門委員、お願いします。

寺門

2 ページ目の項目3の訓練全般についてですが、訓練を実施するのは防災課であるということを前提として書かれているのでしょうか。お願いしている対象はどこですか。

副座長

訓練を行っている側、つまり避難拠点、防災課、消防署も、全員です。

というのは、起震車でも自分の部屋がどうなるかを考えてから乗る、自分の部屋なら家具は倒れるのかという想像力を働かせるような説明をしてから、実際に体験をしてほしい。そのような説明は文章としてはあるのですが、実際の訓練の中身とは少し離れている部分があるので、そのあたりをお願いしたいということです。

寺門

お願いをする相手というのをはっきり書かないと、うまく伝わらない。お願いする先を、きちんと書いておいて頂きたい。

副座長

わかりました。補足いたします。

その他にはございますか。小松委員、どうぞ。

小松

2ページの3、訓練全般についてが一番下のところ「参加者を増やす試みとして、他イベントとの合同開催や、授業参観、体育会」とありますが、11ページのところに練馬区の考え方で「他のイベントとの重複すると、実施主体が不明確になるが、効果は大」とあります。現実には、授業参観、体育会と防災訓練を合同開催することは、参加者を増やす効果はあるが、内容が不明確になる恐れがある。それよりは、訓練の目標・重点に焦点を絞れば、そういう訓練なら参加しよう、様子を見てみよう、というように参加者を増やすことが可能ではないかと思しますので、興味ある目標・重点をここに付け加えてはどうでしょうか。

副座長

他イベントとの合同開催については、いい面もあれば、悪い面もあるので賛否両論分かれるところです。ただ、いつもは防災訓練に来ないような方にも参加してもらえるとという意味では、広い効果もあります。難しいところですが、校長先生からは、授業参観や体育会との合同開催なら、親子が参加できるのでいいねというご意見もあったので、ここに加えさせていただきました。表現について、また検討いたします。

小松

興味をそそるような目標・重点を明確に表すということを目標にしていればな、と思っております。

小野澤

防災課の考え方は、イベントでも何でもいいというものです。そこに防災の切り口を加

えてくれれば良いというお願いをしております。というのは、防災だけで人を集めるのは非常に難しい。大半の地域は、防災が必要なのはわかっているが、お祭りがあるので、その中で防災のことをいれても良いかという状態です。その中で、イベントやお祭りの中できらりと光るものを渡すことができれば良いと考えております。

例えば、お祭りでバーナー操作を入れることにより、災害時は顔合わせが必要ですという説明を加えていけば、防災の意識は必ず高まっていくと言う考えですので、この点は今後も続けていきたいと思っております。

寺門

例えば、「お祭りの最中に地震がおきたよ、さあどうする」という対処法を出すという工夫はできると思います。

副座長

小田委員、お願いします。

小田

先ほど申し上げた話しですが、防災懇談会の活動のまとめの中に、拠点間のレベル格差の是正を求める、という内容は入れられますか。

副座長

会長はいいということですが、私は個人的には、レベルという表現には、様々な受け取り方があると感じます。

小田

では、温度差があるということを提言に入れていただき、その是正を防災課として行うよう、懇談会のまとめに入れていただきたい。

座長

温度差を埋めるような工夫は出来るのではないかと考えているので、まとめの中に文言に注意しつつ入れるようにします。

谷治

皆さんの意見を聞いていて、もつともだ、と思っております。いかに一般市民に欠かしているものを見つけられるかということを考えております。先ほど、寺門さんがお祭りや運動会のときに防災訓練をやるべきだとおっしゃっていたが、そのとおりだと思います。例えば、防災訓練の後に盆踊りをやりましょう、といった方がものすごい数のお年寄りが集ると思います。ベターな方法だと思っております。

今までは、障害をお持ちの方はほとんど表に出ることができなかったが、こんなに車椅子があったの、という時代が変わってきています。余り恥ずかしくならなくなってきた。

私は、長い間、災害に興味を持ち、業界や近所の方を動かしてきましたが、次の時代をどうするかという問題があります。今、避難訓練に行きますと、お年寄りの方が多い。これをいかに若い世代を中に取り込めるような興味を示すものを示していく必要があります。

理想と現実はありますが、温度差はなおせばいいものです。私が、今考えていることは、安全運動の最中に災害起きたらどうするかということです。立っている人たちは全員が車両通行止めをできるようにしようと内閣府が考えています。

障害車両をお持ちの方は、災害時に緊急車両に変えられるようにしようというのもあります。また、安心・安全条例により、認可をとれば正式に青ランプを付けて道路を走ることができます。この中に交通安全が入っていない。

皆さんが今やっている次の段階のことを考えておりましたので、今日はいい勉強になりました。

内田

避難拠点等いろんな問題あるが、強いて言えば情報の共有です。災害医療の訓練と書いてあるが、先ほど図上訓練でどこの病院が空いているかということをおっしゃっていただきました。

そこで、お伺いしたいのですが、病院を直結して、24時間どこの病院が収容できるかという表示ができるものがあるのかどうか。そういうものがあれば、防災課が問い合わせをしなくても受け入れ可能な病院を把握できるだろうという

もう一つは、順天堂病院や日大光が丘病院は区が援助している病院なので、災害時にどれだけ治療を行うことができるかという情報が共有できているか。防災課で把握しているのか、ということも伺いたい。

高橋（洋）

練馬区がそのような業務をやるとしたら、保健所がやることになります。また、そのような設備はありませんので、病院に問い合わせるしかない。

今、救急の分野では情報の共有がされてはいるが、それでも、ベッドがいくつ空いているかという情報を共有しているわけではない。災害時には、ソファーや廊下に寝かせるという話になるので、何床空いているかということとはあまり問題にはならない。むしろ、病床数が足りなければ、他県へヘリコプターで運ぶというシステムを構築することを考えています。

内田

順天堂病院の職員の知識が不足していると感じることがある。トリアージについても先生がおこなってしまっているということもあるので、指導、教育を出来ないのかと思います。

高橋（洋）

順天堂病院については、開院前から職員の教育を一生懸命行っています。準備のスタッ

フは知っているが、オープン後の研修は行っていないので、後から入ってきた職員は知らない、という現象が起きている。救急部長には今のお話をしておきます。

トリアージについては、高いレベルを目指して一生懸命訓練しているが、なかなか難しいところがあります。

座長

時間が迫っているので、次に進めたいと思います。

まとめの方法については、座長、副座長と事務局でまとめさせていただいて、皆様にご提示するという形にしたいと思いますので、よろしく願いいたします。

来年度の防災懇談会について、事務局からお願いします。

事務局（中村）

来年度の防災懇談会の予定についてご説明をいたします。来年度は、(仮称)ねりま防災カレッジについてご審議をお願いしたいと考えています。日程は未定ですが、決定次第、別途ご案内をさせていただきたいと思っております。

座長

それでは、これで防災懇談会を終了したいと思います。

一年間どうもありがとうございました。